平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	監査論B (AuditingB)			授業コード	E008851
担当教員名	工藤 順一			科目ナンバリングコード	E30612
配当学年	3	開講期	後期		
必修・選択区分	選択	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	監査を学ぶことは公務員を目指す人にも、企業に就職する人にもとても有用です。できるだけ毎日、新聞等には目を通しておきましょう。				
受講心得	講義には、必ず出席してください。その際に最新の監査基準を持参してください。インターネット等でも入手できます。				
教科書	レジュメを用いて授業を進めます。				
参考文献及び指定図書	盛田良久著「まなびの入門監査論」(中央経済者) 「会計監査論 第5版」 山浦久司著 中央経済社 「監査法規集」 中央経済社 平林亮子著 「公認会計士試験 短等式 監査論」 中央経済社				
関連科目	簿記入門 財務諸表論 原価計算論 管理会計論、財務管理論 経営学				

授業の目的	監査論という名前は聞きなれませんが、会計のあるところには、必ず監査を伴います。金融機関や 県庁・市役所はもちろん一般企業においても監査は必須です。このため、この講義においては、監査の基礎を理解するだけでなく、就職した後に実際に監査に立ち会ったり、監査資料の提出を求められてもよいように、基礎的な知識を身に付けましょう。大分の新聞等を使用して大分の企業 の問題等も学習します。
授業の概要	監査論Bでは、まず監査論Aの基礎的なところを復習するとともに、監査論Aで学んだ基礎的な知識 を活かして、会社法監査や周辺分野の知識も取り入れていきます。できるだけ、大分の企業等の新聞記事等も取り上げたいと思います。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 : 会計監査のフレームワーク 監査という言葉や、財務諸表監査の定義と目的、財務諸表と監査との関係についても学習します。また、会計監査の限界についても学習します。	監査のフレームに関する新聞記事を読みましょう。
第 2 週 : 財務諸表監査の目的 財務諸表監査が必要となる理論的な背景と財務諸表監査の必要性やその目的を学びます。監査基準第一監査の目的に沿って学習します。また、経営者と監査人との責任の区別(二重責任の原則)についても学びます。	主に復習に力を入れ、監査に関する経済事件の新聞記事を読みましょう。
第 3 週 : 監査報告及び報告書の基本構造 監査基準第四報告基準に沿って「財務諸表が適正である」とは何を意味するかについて学びます。監査の結論を監査意見といいますが、通常は文書化され監査報告書として依頼人に渡されます。ここでは、監査報告書の機能と基本構造を学習します。	監査報告書の新聞記事を読みましょう。
第 4 週 : 追記情報と偶発事象 監査基準第四報告基準に沿って、追記情報の意義や記載対象、重要性の判断の仕方を学びます。	監査の偶発事象に関する新聞記事を読みましょう。

第 5 週 ： 継続企業の前提に関する監査人の検討 被監査会社の継続企業としての存続能力が常に不確実性を有していることから、継続企業の前提に関して開示または監査上どのように対応するかという問題（ゴーイング・コンサーン問題）について扱います。	継続企業に関する新聞記事を読みましょう。
第 6 週 ： 監査制度（1） 金融商品取引法監査制度 財務諸表監査の他に、金融商品取引法による監査制会社法に基づく開示と監査の制度について学ぶ前に、会社法について学習します。会社の立法趣旨や株式会社の設立、計算書類等全般について学びます。	金融商品や会社法に関する新聞記事を読みましょう。
第 7 週 ： 監査制度（2） 会社法監査制度 会社法に基づく開示と監査の制度について学ぶ前に、会社法について学習します。会社の立法趣旨や株式会社の設立、計算書類等全般について学びます。	会計士に関する新聞記事を読みましょう。
第 8 週 ： 不正等に起因する虚偽表示 不正とは何を意味し、その不正に対して経営者や取締役会及び監査役等の責任ついて学びます。日本では、しばしば会計不正が発生しています。その影響が国内に留まればよいのですが、世界中の投資家に影響します。これらの不正について学習します。	、会社法に関する新聞記事を読みましょう。
第 9 週 ： 監査不正の事例研究（1） 東芝はなぜ不正会計に手を染めたのか。東芝の不適切な会計処理が明るみに出たのは、2015年2月、証券取引等監視委員会からの報告命令を受け、工事進行基準案件などについて開示検査が実施されたことが発端だった。長年にわたって続いてきた東芝の会計不正の状況を探っていきます。	主に復習に力を入れ、監査不正に関する新聞記事を読みましょう。
第10週： 監査不正の事例研究（2） 東芝社内に悪しき企業風土がはびこっていたのはなぜか。また、不正後の会社の対応について調べていきます。 会社のCSR情報から、東芝が打ち出した内部統制システムの見直し等を取り上げます。	監査不正事例に関する新聞記事を読みましょう。
第11週： 監査という言葉（総括1） 監査という言葉は、オーデイオ（audio）＝オーディション（audition）、つまり「聴く」というラテン語から派生しています。監査の起源は、「聴く」ということにあったようですから、会計帳簿を前にして、会計の担当者に根掘り葉掘り問い詰める「監査人」の姿が浮かびます。	監査やオーディオに関する新聞記事を読みましょう。
第12週： 財務諸表監査の必要性(総括2) 財務諸表監査が必要となる理論的な背景と財務諸表監査の必要性やその目的を学びます。監査基準第一監査の目的に沿って学習します。また、経営者と監査人との責任の区別（二重責任の原則）についても学びます。	復習に力を入れ、監査の必要性に関する情報記事を読みましょう。
第13週： 監査人（監査主体論）(総括3) 監査人の能力条件について、監査基準第二一般基準1に沿って学習します。また、。一般基準2に掲げられている監査人の公正不偏の態度の意味や独立性について細かく学習していきます。	監査人に関する新聞記事を読みましょう。
第14週： 監査基準委員会報告書（総括4） 監査基準を具体化した実務的・詳細な規定は日本公認会計士協会の指針（監査実務指針）に委ねるとされている。監査基準委員会報告書は、監査実務指針の中核となるものです。今回はその、委員会報告書について学習します。	主に復習に力を入れ、監査基準に関する新聞記事を読みましょう。
第15週： これまでの総括及び模擬試験 これまでに学習した範囲について、総括的に見ていきます。	、監査全体に関する新聞記事を読みましょう。
第16週： 期末試験 これまでに学習した範囲について試験を行います。	試験問題の回答を配布しますので、自宅で復習しましょう。

授業の運営方法	（1）授業の形式	「演習等形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標

【関心・意欲・態度】	3年生ともなると就職活動を通して新聞を読む機会も多くなりますが、日々いろいろな不祥事や会計に関する粉飾事件も起こっています。それらはすべて監査論にもつながっていますので関心を持って読んでください。
【知識・理解】	監査論を通じて、会社法や金融商品取引法の知識を学んでください。株式会社等の資金調達のために監査がどのように機能しているかを知ることで、会社法や簿記の知識も深くなります。
【技能・表現・コミュニケーション】	監査論で学んだ考え方を実際の就職活動でどう表現するかいつも考えてみてください。就職における面接においては、いろいろな質問をされますが、基本は同じです。
【思考・判断・創造】	常に、なぜ？なぜ？という考え方を身につけてください。最初は、知識を覚えることも大切ですが、覚えつつなぜそうなっているのかをいつも考えてください。

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等（テスト）	レポート・作品等（提出物）	発表・その他（無形成果）	
【関心・意欲・態度】※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	20点		10点	
【知識・理解】※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	10点	10点		
【技能・表現・コミュニケーション】※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点	10点	10点	
【思考・判断・創造】※「考え抜く力」を含む。	10点	10点		

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	原則として、毎回講義の初めに課題を出します。提出をもって出席に代えますので、遅刻せずに課題を解いて提出してください。達成水準の目安は以下の通りです。Sレベル:達成目標を満たしている。Aレベル：ほぼ満たしている。Bレベル：なんとか満たしている。Cレベル：一部分満たしている。
発表・その他（無形成果）	授業の中で適宜質問します。質問に対する解答については、成績評価において加点することがあります。